文学に関する他愛ないつぶやき、或いは引用の雑誌
―「Li-tweet」（創刊号）の編集後記―

崎本　智（６）

「Li-tweet」という雑誌名は一時的に部を離れている牧村拓氏が名付けてくれた。この名前の由来は「literature」(文学)の最初の二文字「li」を「tweet」につけ足したごく単純なものに過ぎない。しかしその発音が「リツイート」となることから多重な意味を含むことができているのではないかと僕自身、気に入っている。
「リツイート」……それはもちろん「ＲＴ」。タイムライン上で僕たちは「他者」の言葉を引用することができる。
「引用」というのは文学に置いて重要な意味を含んでいると思うし、さまざま場面で使われてきた言葉だ。
「小説や評論は過去のさまざまな書き手たちの言葉の引用に過ぎない」とは誰の言葉だったのか、思い出すこともできない。
けれど今回の雑誌の書き手たちもまたそれぞれに愛すべき過去の作家を胸の内に秘めた＜新しい書き手たち＞であることに間違いはない。
過去とそして現在、未来をつなぐことは僕たちのような無名の書き手にとっても一応の使命と考えても良いだろうか。
過去、この twitter 文芸部にもさまざまな書き手と読み手がいた。今回の雑誌はもちろん前身として「月刊 twitter 文芸部」を踏まえなければここまで大きなものをつくることはできなかったはずだ。「月刊」で得た技術や知識を部員総出で今回の雑誌に応用させてもらった。よっていまや部を去ってしまった元部員たちの力も当然有形無形に借りている。そのことにまず敬意を払いたい。
僕自身おっかなびっくりで「twi 文」に入り、当初は沈黙をしたままだった。しかし沈黙を許さない、或いは興奮を喚起させるさまざまな部員たちとの出会いがあり、素晴らしい示唆を受けた。そのことをあげればきりはなく、いつしか思い出話になってしまうからここではあえて書かない。けれど過去にいた部員の皆には感謝をしてやまない。Twitter 文芸部のいまがあるのは、彼／彼女らのおかげであることに異議のある者はいないはずだ……。
そして現在、この「Li-tweet」発刊のための編集・デザイン・宣伝に携わっていただいたり、寄稿していただいた部員に熱く感謝を述べたい。もともと締切日までの時間がない中でよくぞこれほどの原稿があつまったと驚く。また僕の無理なお願いをいろんな

方にきいていただき、それが素晴らしい成果になったと感じている。現在のメンバーでできるベストワークス。手前味噌ばかりだけどそう言って過褒にはならないはずだ。
さいごに未来。ここに集う部員たちはそれぞれの目標に向かう手段としてこの部を利用してもらっていると思う。プロの作家が出る日も遠くないのではないかと真剣に思う。それぐらい部員たちの文章は傍で読んでいて嫉妬したり驚いたりすることが僕にとってはよくある。それぞれの書き手にとってこの「Li-tweet」創刊が目標に向かう一歩になっていれば僕にとりこれほど嬉しいことはない。勿論、プロになることだけがすべてではないし、それを目標とされてない方もいらっしゃるのでそこは注意が必要。

最後にこの雑誌を読んでくれたあなたに最大級の感謝を述べたい。

ありがとう！